

まちづくりの課題について

土岐市の現状や社会潮流を踏まえ、今後の 5 年間、10 年間で対応すべき、又は、解決すべき課題はどのようなものか、その内容や方向性について、次ページ以降の内容もご参考に、**ご意見**をお願いします。

参考1 課題の例

◆進展する人口減少、少子高齢化の抑制

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の推計では、土岐市の人口は令和32(2050)年には約 3.7 万人と、ピーク時(約 6.6 万人、平成 7(1995)年)の6割以下に減少すると予測
- ・ 令和22(2040)年以降は老年人口も減少し、人口減少第3段階に突入する見込み
- ・ 労働を担う生産年齢人口の減少は、労働力の低下、税収の減少などに直結しており、喫緊の課題。
- ・ 出生数の低下が顕著であることから、出生率の増加を図っていくことが重要
- ・ 転出者の抑制とともに、UIターン等による移住者を増加させ、人口減少をできる限り抑制していくことが必要
- ・ 団塊の世代が後期高齢者となったことから、介護需要の爆発的な増加による介護サービス低下や買い物など日常生活に不安を持つ高齢者の増加も懸念

◆まちなかおけるにぎわいの再生

- ・ 社会増減は平成17(2005)年以降、100 人程度の減少が続く
- ・ 大規模商業施設が進出する一方で、駅周辺をはじめとする各地区の商店街のにぎわいは失われ、市民意見でも駅前のにぎわいのなさを指摘する意見も多い。
- ・ 令和4(2022)年にショッピングモールが開業するなど、若年層の雇用創出に貢献するも、中心部から離れたエリアでの立地であり、まちの密度向上や地域主体のまちづくりにより、暮らしやすいまちづくりが必要
- ・ 観光は、コロナ禍で落ち込み、以前の水準まで回復していない。全国的にはインバウンド効果がみられる。
- ・ 主要な集客施設であるアウトレットやショッピングモールなどの施設を訪れる来場者を市内観光へと誘う仕組みを構築し、更なるにぎわいを展開していくことが必要。

◆安全・安心で暮らせる地域の形成

- ・ 土岐市では、台風や集中豪雨といった風水害による災害が発生している。
- ・ 人口減少が進む中、防災対策から発災時の行動まで、すべてを行政任せにすることはもはや不可能な時代。災害時に被害を最小限に抑えるためには、市民一人ひとりが自らを守る自助、近隣で互いに助け合う共助、そして行政が行う公助、これらが連携し対策を行っていくことが重要。そのため、市民が日ごろから災害発生に備えることが重要。

◆こどもがまんなかのまちづくり

- ・ 本市の令和4(2022)年の合計特殊出生率は 0.99 と、国や県の平均を大きく下回り、危機的な状況
- ・ 令和32(2050)年には若年女性が4割減少し、若年女性数が大きく減少することで出生数が激減する恐れ。
- ・ 本市においては出産可能な医療機関がないため、産科を望む声も多数
- ・ 市民が安心して出産できる体制の整備が必要。
- ・ 国においては、「こどもまんなか社会」の実現を掲げ、子育てを支援。
- ・ 本市でも、若者の出会いから出産、子育て、教育に至るまでの各段階に応じて、切れ目なく多様な支援がある、子育て世帯が住みやすい地域づくりが必要。

◆効率的・効果的な行政経営の推進

- ・ 本市の財政力指数 0.66、経常収支比率 93.9%と横ばいで推移するも、類似団体平均と比較するとやや悪い。
- ・ 高齢化率の上昇により扶助費など社会保障費の増加、税収の減少など、まちの持続性が低下する恐れ。
- ・ 公共施設等の老朽化に伴う更新等の費用も必要になってくることから、一層の行財政改革が必要
- ・ 機構改革を実施して市民にわかりやすい簡素で効率的な組織を編成するなど、行政の効率化に一定の成果をあげるも、質の高い行政サービスを提供していくためには、時代に即した効率的な行財政システムの確立に引き続き取り組むことが必要。

◆市民との共創によるまちづくり

- ・ 住みよい、安全な地域を形成していくうえでは、自治会など地域との連携した活動が不可欠だが、本市の自治会加入率は低下傾向にあり、地域への啓発方法や地域と行政の連携の在り方を再検討することも必要。
- ・ 市民の市政への参画機会を創出するほか、市民と行政の情報共有を進めることにより、相互の信頼関係を深め、共に考え、共に行動する共創のまちづくりを進めることが必要。

参考2 土岐市職員による SWOT 分析

SWOT 分析とは

- ・ 企業や事業の現状を分析するためのフレームワークの 1 種
- ・ 内部環境と外部環境に関する要素を「強み」・「弱み」・「機会」・「脅威」に区分して分析

内部環境とは・・・

- ・ 地理的・自然的条件や人口世帯、土地利用など市の環境のこと

Strength: 強み

- ・ **プラス**の影響を与える要素のこと
(市の長所)

例: 市の人口が増えている、企業立地が多い など

Weakness: 弱み

- ・ **マイナス**の影響を与えうる要素のこと
(市の短所)

例: 市内の公共交通が弱い、医師、診療所が少ない など

外部環境とは・・・

- ・ 国や県の動向、他都市の動向、民間技術など、市を取り巻く環境のこと

Oppportunity: 機会

- ・ 外部環境のうち、**プラス**の影響を与えうる要素のこと

例: 国の規制が変更、生成AIなどが身近に など

Threat: 脅威

- ・ 外部環境のうち、**マイナス**の影響を与えうる要素のこと

例: 地球温暖化が進展、南海トラフ地震の恐れ など

Strength (強み)

商業系

- ・ イオンのイベントで有名人を呼べる
- ・ 土岐文化プラザに色んな著名人が来る
- ・ 映画館ができる
- ・ アウトレットで買い物ができる
- ・ 高速道路のインターが 3 か所あり、物流の面で強い
- ・ 陶器が安く手に入る

自然

- ・ 自然豊か
- ・ 土地が広いので、工場を誘致できる
- ・ 1軒あたりの土地が広い
- ・ 大きな自然災害が少ない
- ・ ハイキングやピクニックする場所がある
- ・ 自然を活かした子育て世帯の誘致
- ・ 高速がある市外からもアクセスがしやすい
- ・ キャンプ場がある

交通

- ・ 名古屋まで 40 分で行ける
- ・ 交通網の利便性
- ・ 電車 1 本で名古屋に出られる

Weakness (弱み)

住民

- ・ 税金を滞納する外国人が多い
- ・ 日頃から市を盛り上げる活動をしている団体が少ない(目にする機会がない)
- ・ 本来なら住民同士で解決できる事案を市に求める人が増えた

施設

- ・ 人が大勢集まる場所がイオンやアウトレットしかない
- ・ 大学がない
- ・ 若者が集まる店が少ない
- ・ 市内の中小企業が少なくなっている
- ・ 若者が集中する施設がない

観光

- ・ 土岐市特有の観光名所がない
- ・ 土岐市を表すゆるキャラが多数いる
- ・ 市外の人も認知している名物(食べるもの)が少ない

交通

- ・ 駅前の過疎化
- ・ 鉄道の減便で交通が不便になっている
- ・ 市民バス減便
- ・ 駅前にタクシーがない

商業

- ・ 創業者人口が少ない
- ・ 駅前商店街に活気がない
- ・ 駅前に居酒屋がない
- ・ 駅前がシャッター商店街になっている

人口減・少子高齢化

- ・ 人口減少
- ・ 労働者人口が減少
- ・ 議員の高齢化
- ・ 地域産業の担い手不足
- ・ 町内会に入る人の減少
- ・ 地域産業の後継者不足
- ・ 草刈りができる人の減少

Opportunity (好機)

日本文化の流通

- ・ 外国人観光客の増加
- ・ アニメ

移住・訪問

- ・ 田舎暮らしがブームになっている
- ・ 空き家を求める人が増えた
- ・ リニア開通で多少の人の流入が見込まれる

Threat (脅威)

お金

- ・ 給料が変化しないのに、物価が上昇している
- ・ 年収が少なく、趣味などに使えるお金が少ない

自治会

- ・ 自治会の結束力が弱まっている
- ・ 町内会の未加入世帯が増えつつある
- ・ 地域活動の参加率の減少
- ・ 自分の住んでいる地域に興味関心がない人が増えた

人口減少

- ・ 愛知県と絶妙な近さゆえに、都市部に労働力が奪われる
- ・ 少子高齢化が進んでいる

参考3 ウェルビーイングアンケートからみる課題

【土岐市は暮らしやすいまちか】

- ・ 10代と40代で暮らしにくいと感じている割合が多くなっています。
- ・ 曾木地区、駄知地区で、暮らしにくいと感じている割合が多くなっています。

【今後の居住意向】

- ・ 若い世代の方が、転出意向を持っている傾向があり、10代では、市外で暮らしたい割合の方が定住したい割合よりも多くなっています。

【土岐市の取組への満足度】

- ・ 満足している割合(満足とやや満足を合算)は、不満足(やや不満と不満を合算)より、3.2ポイント低い(不満が多い)。
- ・ 30代から60代まで、年齢が上がるにつれ、満足している割合が減少しています。
- ・ 地区別では、曾木地区、肥田地区で満足の割合が少なくなっています。

【ウェルビーイング指標】

- ・ 主観データで低い指標は、「買物・飲食」25.5、「事業創造」30.2、「雇用・所得」30.5、「遊び・娯楽」30.6等となっています。
- ・ 主観データと客観データを比較すると、「初等・中等教育」「買い物・飲食」「雇用・所得」で差が大きく(主観の方が低い)なっています。

【生活環境に関する項目】

- ・ 「買い物」や「飲食」、「通学しやすい学校」に対しての数値が低くなっています。

【地域の人間関係に関する項目】

- ・ 見知らぬ他者や若い人、女性等多様な人が交流・活躍する項目は低くなっています。

【自分らしい生き方に関する項目】

- ・ 文化が盛んとはあまり感じていないものの、未来に繋いでいきたいと考える項目は高くなっています。
- ・ 学びや仕事に関する項目は、低い傾向となっています。

参考4 市民懇談会で出されたよくないところ

- ・ 市をPRする時に美濃焼に比重を置きすぎていることや、駅前の賑わい、商店街の賑わいが寂しいことなどが短所として挙げられています。また、飲食店の閉店時間が早く大人が集える場が無い等の意見も挙げられました。
- ・ こどもに関することとして、産科がないこと、学校教育の内容について改善が必要ではないかという意見が挙がりました。また、市内に大学がないことで、学生等の若い人が少ないことや、商業施設がアルバイトとして学生を雇えないことなども悩みどころとして挙げられました。